

HISTRIP

ヒストリップ

茨城県石岡市を巡る
歴史小旅行へ



千三百年前は 日出る東の 要の国だつた



奈良時代には国府が置かれ、常陸国の政治・経済・文化の中心として栄えた石岡。大和朝廷はここを日出る東の最も重要な国であり、陸奥につながる拠点の国としていた。

石岡の略歴

- 大化 2年（646年） 石岡に常陸国衙が置かれる
- 承平 5年（935年） 平国香（常陸大掾）、将門との戦いに敗れ没す
- 応永 33年（1426年） この頃、大掾氏が石岡を拠点とする
- 天正 18年（1590年） 大掾清幹が佐竹氏に攻められ、府中城落城。大掾氏滅亡
- 元禄 13年（1700年） 松平頼隆が府中藩主（2万石）となる
- 元治 元年（1864年） 天狗党事件（筑波山に挙兵）、府中焼打ち
- 明治 2年（1869年） 版籍奉還により府中藩は石岡藩に。府中平村を石岡と改称



国府一丁目。地名が歴史を語っている



常陸国分寺跡

天平13年(741年)聖武天皇の勅願により、国土安泰を祈願して全国66ヶ所の一つとして建立された。現在でも当時の礎石が残っており、毎年4月8日には「国分寺花まつり」が行われる。国指定特別史跡 ■ 石岡市府中 5-1



府中城の土壘

府中城は石岡市を治めた大名・大掾氏により国府の地に築城された。天正18年(1590年)佐竹氏の手により落城するが、現在は土壘が残り往時の姿をしのぶことができる。

■ 石岡市総社 1-2



常陸國總社宮

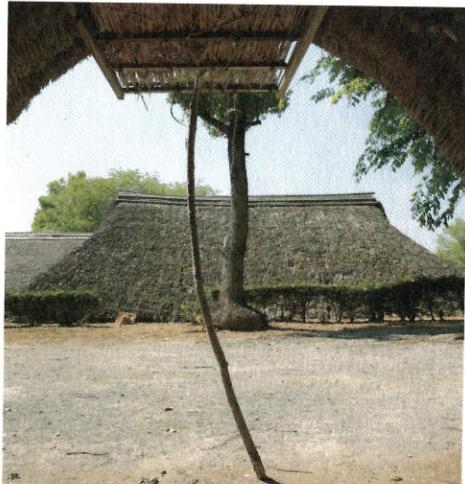
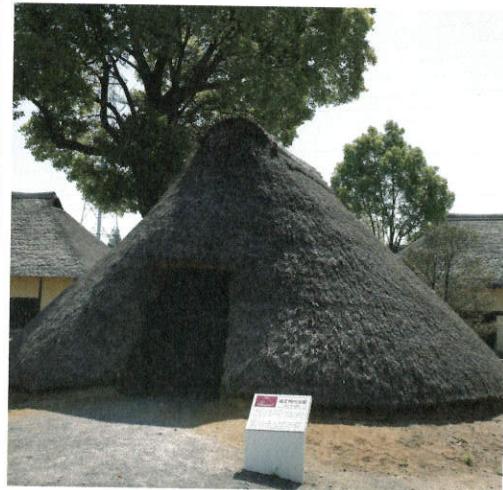
約千年前に常陸国(現茨城県)の神々を国府に合祀したのが創建の由来。鎮座地は国府跡に隣接し、ヤマタタケルノミコトが腰かけた伝説の石がある。毎年9月に開催される例大祭(石岡のおまつり)で知られる。

■ 石岡市総社 2-8-1

石岡市街の地図には「国府」や「府中」といった地名がみられる。ここ石岡は常陸国を中心、国府として栄えてきた。この地をめぐっては実にさまざまな歴史が繰り広げられてきた。かつて平将門に国衙を焼かれたとされるが、平氏同士の争いの後に桓武平氏の大掾(だいじょう)氏がここを居城とし、戦国時代末期まで約300年

流れをくむ佐竹氏に最後は石岡の城と街を焼かれ大掾氏は滅ぶ。佐竹氏は常陸の戦国時代を制するも家康より秋田へ移封され、この地での支配は約10年と短い期間だった。それからは徳川家の一族松平家2万石の街として復興し、酒や醤油の产地として繁栄してきた。千三百年。悠久の時が流れ今の中岡がある。

古代から近世までの歴史を肌で感じる



常陸風土記の丘

文化史跡や名所旧跡の資料、里の伝承などとふれ合う施設。イベントも多く、季節の花々も見どころのひとつ。写真は「石岡のおまつり」に巡回する獅子頭を日本一の巨大サイズにし、丘の見守り役としたもの。

■石岡市染谷1646 TEL.0299-23-3888
9時～17時(11月～2月は～16時)/月曜定休

石岡市内には1万年以上も前の旧石器・縄文時代から弥生時代に至る数多くの遺跡がある。さらに4～6世紀の古墳時代の遺跡として県内最大規模を誇る舟塚山古墳(写真右)をはじめ、府中愛宕山古墳、要害山一号墳など数多くの古墳が点在。古代豪族がこの地に割拠していたことを今に伝えている。「常陸風土記の丘」はそうした石岡の歴史的財産を活用しながら、歴史、伝承、体験学習などができる施設。古代家屋復元広場や、常陸国の官営工房とされる遺跡を復元した鹿の子史跡公園などがあり、古代から近世の歴史に触れることができる。

看板建築を今に残す 昭和初期の町並み



◀ 丁子屋

江戸時代末期に建てられた染物屋で現在は観光施設。カフェや雑貨販売、藍染め体験等を行っている。昭和4年(1929年)の大火灾で焼失を免れた商家建築の一つである。



◀ 府中誉

安政元年(1854年)創業の造り酒屋。代表銘柄の「渡舟」(わたりぶね)は幻の酒米渡船を原料米とした全国唯一の酒として知られている。

無名の職人たちが西洋の様式や意匠をもとに独自に創り上げた庶民の建築様式だ。看板建築を含め市内には登録有形文化財として19棟が登録されている。

石岡駅から西へ5分ほど歩くと、レトロな店構えの商店が見えてくる。これを看板建築といい、主に東京や関東周辺で関東大震災後に商店などに用いられた建築様式である。木造2階建ての店舗兼住宅で建物の前面を垂直に立ちあげ、モルタルや銅板、タイルなどで洋風のデザイン装飾を施した建物をいう。多くは正式なギリシャ古典様式を踏襲したものではないが、その違いこそが看板建築らしさ。





あなたの知らない、 茨城の真ん中へ。

ここ石岡は筑波山の東の麓、
ちょうど水戸とつくばの中間に位置する茨城県の中部都市です。
約1300年前の奈良時代には国府が置かれ、
常陸国の政治・経済・文化の中心として栄えました。
温暖な気候により昔から農業も盛んで、
農業王国・茨城を代表する食の産地になっていきます。
自然豊かな風土に、古都と郷の文化が薫る街、石岡市。
あなたの知らなかった茨城の真ん中に
どんな魅力が潜んでいるのか、探してみませんか。

茨城の芯発見。

I B A R A K I
M I D C I T Y
I S H I O K A

石岡への行きかた

東京方面から

【車で】

常磐自動車道を水戸方面へ向かい、千代田石岡 IC。東京から約50分

【電車で】

上野駅からJR常磐線特急ときわで約50分
(石岡駅下車)



一年を通じて、おいしいものがたくさん。



そばのブランド「常陸秋そば」をご存じですか？在来種から改良した品種で、独特の香り、風味、甘みに優れ、全国の有名そば職人からも高い評価を得ている茨城県を代表するブランドです。ここ石岡でも「常陸秋そば」が栽培され、こだわりのそば屋がその腕を競っています。自慢の味を食べ比べするのもおすすめです。フルーツも石岡を代表する産物。代表といっても生産されている種類は実に豊富で、一年中何かが収穫できる果物天国。いちご、ブルーベリー、ぶどう、梨、栗、柿、りんご、みかん…。春夏秋冬いつでも果物狩りが楽しめます。田舎道をブラブラして、お昼は蕎麦を食べて、おやつに果物狩り。こんどの休日はそんなプランで行ってみませんか。

四季折々の花を
愛でる楽しみも。



約30haと広大な花と緑の公園。年間を通してバラを中心としたさまざまな花が楽しめます。世界のバラ800品種30,000株、ボタン3,500株は驚嘆のスケール。フラワードームのベニシアやダリアも見どころのひとつ。スポーツスライドやフラワーサイクルなど、お子様たちも楽しめる設備も充実！

茨城県フラワーパーク

■石岡市下青柳 200

TEL.0299-42-4111

9時～17時

(12月～1月は～16時)／月曜定休

旬を知ると、四季が、暮らしがたのしくなるかも。



ここ石岡の八郷は安心・安全な食へのこだわりをもつ生産者の方々が多いことでも知られています。近年はその豊かな農耕環境に魅せられて移り住み、独自のこだわりをもって野菜づくりをする人も増えているようです。そのこだわりとは、農薬や化学肥料を使わず自然に寄り添うこと。野菜本来のおいしさ、旬のたのしみを大切にしたいというのが多くの方に共通する想い。確かにスーパーに行けば、いつでもいろんな野菜が買えます。でも昔は、その地でその時季にしか採れない野菜を食べて暮らすのは当たり前でした。旬を感じてみませんか。不格好でも土や虫についていても、野菜の本当のおいしさを感じてみませんか。

大地の恵みを味わう
自然派レストランへ。

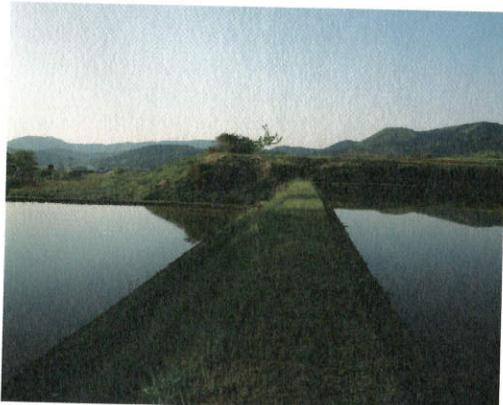


自然のおいしさを引き出すように、大切に育てられた野菜。自然に近い飼育でのびのび育った鶏や豚。このレストランには安心・安全な食のためにこだわりをもって育てられた生産者の方々の結晶がたくさん集まっています。八郷の自然のおいしさを存分に味わってください。

Yasato de toreta

■石岡市下青柳 200
レストラン TEL.0299-42-4822
11時～16時30分 LO
(土日祝は19時30分 LO)／月曜定休
直 売 所 TEL.0299-36-5031
9時～18時／月曜定休

行ったことないのに、なんか懐かしい田舎の風景。



よく晴れた日は東京からも見える筑波山。その東の麓に石岡市はあります。田畠や果物園が広がる八郷地区には茅葺き屋根の民家が今なお多く残っており、まるでタイムスリップしたかのよう。ふるさとの原風景を感じさせるのどかな里山は「にほんの里100選」に選ばれています。のどかな田園をゆっくりドライブしたり、風を受け季節の匂いを感じながらサイクリングするのも心地いいものです。知らない土地なのに、どこか懐かしさを憶える田舎、石岡の八郷。一度ぶらっと寄ってみませんか。時間の流れかたが違うことを、きっと肌で感じることでしょう。

*茅葺き民家のほとんどは現在も居住する方々の生活の場で、観光目的の公開は原則として行っておりません。見学や写真撮影などを希望される場合は、必ず居住する方の了解を得てください。留守宅への立入や、敷地内での飲食や喫煙はご遠慮願います。

石岡は農業王国・茨城を代表する産地です。



東京から車でも電車でも約1時間。石岡市八郷地区は筑波山系の山々に囲まれた自然豊かな環境で、昔から米や野菜、果物などが生産されてきました。お越しの際はぜひ産地直売所でお土産に野菜、果物をどうぞ！



息づぎしに行こう。
ときどき、



こんどの休みの日、野菜になろう。

おいしい空気と土の養分と水を、野菜がたっぷり吸収して育つように、

人間もときどき自然の匂いに包まれながら、風に吹かれてのんびりしたらしい。

こころに行き渡るように、深呼吸をしてみよう。

ごちそうさと

茨城県石岡市の
おいしい田園風景へ

